

授業科目名	【G】 国際経済論 I	区分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
科目区分	専門科目:教科及び教科の指導法に関する科目(---公民--)					
授業形態	対面授業					
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための(---公民必修---)科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」(高一種免公民)					
サブタイトル	問題演習を通じて国際経済の仕組みを理解する			担当者	小川 竜明	
授業概要	【概要】	<p>これまで、本科目を履修する学生の多くが教員志望者や公務員志望者であった。そこで、過去に教員採用試験や公務員採用試験で出題された問題を用いながら国際経済の理論を学習していく。過去問を使うことで、暗記が求められるキーワードや理解すべきものが明確になる。次の(1)~(4)を達成するため、授業開始までに各回の「ワークシート」にある問題を解いてくること(予習)を必須とする。</p> <p>(1) 問題を解く作業を通じ、「わかるもの」と「わからないもの」に分けることができる。</p> <p>(2) 授業では、予習の段階で「誤解していたもの」や「わかったつもりでいたもの」、「わからなかったもの」に重きを置いて説明を聞くことができる。</p> <p>(3) 「同じ間違いを繰り返さない」という復習の意味を見出すことができる。</p> <p>(4) 教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を知り、対策を立てることができる。</p> <p>「本科目を受講して良かった」と心から思える秘訣は、これらを完遂し、高い学習効果を得ることに尽きる。</p> <p>なお、国際経済論 I では、国際収支、国際金融(外国為替)、貿易を扱う。</p>				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> 国内及び海外のさまざまな経済事象や経済問題について、自分の頭で考え、自分なりの答えを出し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようになる。 物事を深く、且つ多面的に捉えられるようになる。 教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を把握し、今後の学習計画が立てられるようになる。 				
履修条件	<p>真摯な姿勢で授業に臨む意志があり、且つ次の(1)、(2)のいずれかに該当する者。</p> <p>(1)教員、国家公務員または地方公務員(警察官、消防官を含む)を志し、採用試験に合格するためならいかなる努力も惜しまない者。</p> <p>(2)経済に関心があり、経済について限りなく深く分かろうとする気概を持つ者。</p>					
アクティブラーニングの方法	【-】 事前学習型	【-】 反転授業	【-】 調査学習	【-】 フィールドワーク		
	【-】 双方向アンケート	【○】 グループワーク	【○】 対話・議論型授業	【-】 ロールプレイ		
	【-】 プレゼンテーション	【-】 模擬授業	【-】 PBL	【-】 その他		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)				
他科目との関連性	<p>①あらかじめ履修を済ませてほしい科目:経済学 I、経済学 II</p> <p>②同時に履修することが望ましい科目:特になし</p> <p>③当該科目を履修した後で履修してほしい科目:国際経済論 II</p>					
教科書	教科書は使用しない。 予習用教材(ワークシート)や授業で使用する資料(問題の解説)は担当者が用意し配布する。					
参考書	<p>〈国際収支〉棚瀬順哉『国際収支の基礎・理論・諸問題』財経詳報社、2019年。</p> <p>〈国際金融〉西村陽造・佐久間浩司『新・国際金融のしくみ』有斐閣、2020年。</p> <p>〈貿易〉大川良文『入門 国際経済学』中央経済社、2019年。</p> <p>その他、授業内で適宜紹介する。</p>					
評価方法	<p>下記の(1)小テスト(配点36)、(2)学習到達度確認テスト(配点64)の結果を総合的に勘案し成績を評価する。</p> <p>(1)小テストは、第3回から第14回の授業開始直後に行う(3点×12回、答案の出来により0点~3点を付与)。</p> <p>・小テストは前回学習した内容の理解度を測るものである。</p> <p>(2)学習到達度確認テストは、授業で学習した内容に沿う形で応用問題を出題する(正解数に応じて得点を付与)。</p> <p>小テスト、学習到達度確認テストともに、配付した資料やノート、スマートフォン等の電子機器類の持込みはすべて「不可」とする。</p>					
フィードバック方法	小テストは採点后、答案を返却する。小テストを採点し誤答が目立った問題については別途解説を行う。					
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容について、これをよく理解し、答案等に自分の言葉で適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。 単元の内容についての理解や表現に、何らかの不適切なし若干不足する点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。 単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 学習到達度確認テストに欠席するなど、評価不能の場合は「F」とする。 					

授業科目名	【G】 国際経済論 I	区分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
		その他参照				
授業回数	授業内容					
1	オリエンテーション、国際収支(1)―「経常収支」「資本移転等収支」「金融収支」の関係を押さえる 予習: シラバスを読み、疑問に思った点などを余白にメモしておく(30分) 復習: 授業の説明を100%理解する(150分)					
2	国際収支(2)―「経常収支」の項目である「貿易・サービス収支」や、「第一次所得収支」と「第二次所得収支」の違いを押さえる 予習: ワークシート[2]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
3	国際収支(3)―「金融収支」の項目である「直接投資」「証券投資」「外貨準備」などを押さえる 予習: ワークシート[3]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
4	国際収支(4)―各収支の「黒字」や「赤字」が意味するものを理解する 予習: ワークシート[4]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
5	国際収支(5)―「投資・貯蓄バランス」や「国際収支発展段階説」を理解する 予習: ワークシート[5]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
6	国際金融(1)―「為替」の意味を押さえ、「内国為替」と「外国為替」の違いを理解する 予習: ワークシート[6]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
7	国際金融(2)―「外国為替相場(為替レート)」が変動する要因を押さえる(経常収支、国内外の金利差) 予習: ワークシート[7]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
8	国際金融(3)―外国為替相場の変動が国内の「物価」や資産の評価額、経常収支に与える影響を考える 予習: ワークシート[8]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
9	国際金融(4)―「外国為替相場(為替レート)」が変動する要因を押さえる(通貨当局による「外国為替市場」への介入) 予習: ワークシート[9]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
10	国際通貨制度の歴史―「ブレトンウッズ体制」とは何かを理解し、「ニクソン・ショック」が発生した要因を考える 予習: ワークシート[10]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
11	貿易(1)―リカードが唱えた「比較生産費説」の学習を通じ、貿易のメリットを理解する 予習: ワークシート[11]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
12	貿易(2)―「GATT」の成立から「WTO」に発展改組されるまでの歴史を押さえる 予習: ワークシート[12]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
13	地域的経済統合(1)―第1段階である「自由貿易協定(FTA)」、第2段階の「関税同盟」を押さえる 予習: ワークシート[13]にある問題を解く(45分) 復習: 次回の小テストに備える(135分)					
14	地域的経済統合(2)―第3段階の「共同市場」、第4段階の「経済同盟」、第5段階の「完全な経済統合」を押さえる 予習: ワークシート[14]にある問題を解く(45分) 復習: 回次の期末試験に備える(135分)					
15	授業の総括(30分)と学習到達度確認テスト(60分) 予習: これまで学習した内容を振り返る(240分) 復習: これまで学習した内容を反芻する					
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の理解度等を考慮しながら進めていくので、授業内容は変更する場合がある。 ・新聞の経済欄に目を通すことを習慣とし、最新の経済動向を追うこと。 ・真摯に授業を受ける学生の志気を下げようとする行為(教室中に響く深い溜め息、大あくび、居眠り、私語、電子機器の使用等)を行った者に対しては退室を命じるなど、厳正に対処する。 ※Gカリ:【選択必修修(サ)】					